

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立黒川小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 各分学、各学年それぞれの立場で、学校教育目標達成に向け、職員、子ども、地域・保護者が三位一体となり、きらり⑩の具現化に取り組んだことで、児童・保護者・地域の方から感謝や励ましの声をいただいたき一定の成果をあげられた。6年生を中心に子ども達自身も主体的にきらり⑩の達成に向けた行動ができ、自己有用感の高まりが感じられた。 三校合同の人権教育や「はたらくプロジェクト」、学校サポーター、伊万里の「人、もの、こと」を生かした地域と連携した豊かな教育活動が実現した。 早寝・早起き・朝ごはんの実施率の向上やスタディワークの実施率の向上など、児童や家庭への更なる啓蒙や取り組みのフィードバックを行う。 CRTの結果より、更なる学力の向上を目指し、スキルアップ研修や授業参観など学校全体で質の高い授業づくりを追求するなど、研鑽の場を増やす。
------------------	---

2 学校教育目標	自己有用感をもって主体的に学び、きらり輝く黒小っ子の育成 ～校訓「黒川大好き 仲良くがんばる」～
----------	--

3 本年度の重点目標	①主体的に考え、学び合う授業 ②志を高める教育活動の推進 ③特別支援教育の充実 ④感謝と思いやりの心の育成 ⑤人権尊重の視点に立った生徒指導の充実 ⑥運動習慣の改善や健康な体の育成 ⑦危機回避能力の育成 ⑧愛郷心の育成（きらきら伊万里っ子） ⑨コミュニティ・スクールの充実 ⑩教職員の指導力向上と業務改善（働き方改革）
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・「授業作りのステップ1・2・3」シートによる日常的な授業実践 ・家庭学習の質の向上(うちがくノートとタブレット学習の活用) ・スタディワーク(うちがく・うちどく)の定着 ・読書活動「うちどく」の充実	○「授業作りのステップ1・2・3 Vol1.2」のステップ2を達成している職員90%以上。 ○よりよい学校づくりアンケート「進んで読書をしていますか」で「よくできている、できている」の回答を90%以上を目指す。 ○おはなしどくぐり」と協力をして、うちどくを推進する。 ○家談・家学への取組が90%以上	・「授業作りのステップ1・2・3 Vol1.2」に沿った授業を展開し、1時間の中に「書く」活動と「話し合う」活動(対話)を設定し、自己表現する場を設定する。 ・年間や学期ごとの賞し出し目標冊数を明示し、賞し出し冊数を視覚化して、図書館の利用の充実を図る。 ・うちどくぐりレーの感想を図書館だよりで紹介して、うちどくに対する意欲を高める。 ・家談は月に1回、家談ワークを設定する。家学は毎週末の宿題で取り組ませ、良い内容については掲示や表彰を行う。							学力向上コーディネーター 図書主任
	○人権が尊重される学習活動づくりの推進 ・対話力の向上 ・タブレット端末の有効活用	○人の話をしっかり聞く(児童95%以上) ○対話を通して自他の意見を認め合うことのできる(児童90%以上) ○人権が尊重される授業作り(チェックリストを8割達成している教職員90%以上) ○タブレット端末を授業に有効活用している教職員90%以上。	・「人権が尊重される授業づくりの視点」をもとにペアやグループ活動を仕組むことで、人の話をしっかり聞く児童を育成する。 ・異なる意見や多様な価値観に触れる機会を意図的に授業内に取り入れ、自分の考えを持ち、異なる立場の友達と意見交換する対話活動を通して、自分と異なる考えを尊重しながら話し合う力を育成する。 ・伊万里市小学校ICTスキル習得体系表を活用し、発達段階に応じたタブレット端末を活用した授業を行う。							研究主任・副主任
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ・人権が尊重される人間関係作り・環境づくり ・自己有用感を高める4ポイントの徹底実践 ・異学年集団活動や「出番・役割→承認」を取り入れた特別活動・教科指導 ・自他の「きらり」見つけ ・「伊万里っ子しくさいのちの教育」を活用した心の教育	○人権が尊重される環境づくり・人間関係作り・学習活動づくりを意識し、「教育活動全体を通して心の教育を行い、児童の心を耕す指導を行っている」と回答した教員100%。 ○「先生方はあなたのよいところを認めてくれると思う」と回答する児童80%以上	・人権・同和教育の視点で授業づくりをする。自己理解や他者理解を図り、学校の教育活動全体を通して人権意識の向上に努める。 ・「いのちの教育指導資料」または、「伊万里っ子しくさい」を活用した授業を年間1回以上行い、活用を推進する。							人権・同和教育担当 道徳主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 (いじめの未然防止と早期発見) ・いじめや人権に関する道徳授業の充実及び体験活動の充実 ・SC、SSW、民生委員等と連携したいじめ対策委員会	○毎月1回生活アンケートを行い、児童の悩みや不安を早期発見し、教育相談を行う。 ○「いじめや不登校に対して、積極的にその防止に努めている」と回答した教職員100% ○「学校はいじめに対して、予防や早期発見、丁寧な対応を行っている」と回答した保護者95%以上。 ○年に2回教育相談週間を実施し、児童に寄り添い児童の気持ちを受け止める。	・生活アンケートや日頃の児童観察により児童の悩みや不安を早期発見し、児童の話を聞いたり、SCにつなげたりする。 ・連絡会で毎週気になる子についての共通理解を図る。 ・全学年共通の教材を活用し、各学年でいじめを生まない道徳の授業を行う。 ・SC及びSSWとの連携を図り、全学年1回はSCによる心の授業の実施及び職員研修を実施する。							教育相談担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 ・夢や目標をもってチャレンジする場作り ・自分で決めてや計画、意思決定したり、振り返りする時間の確保	○「自分で決めて、チャレンジしている」と回答した児童90%以上 ○「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童90%以上	・各学年、各月や各学期、行事ごとに「黒川きらり⑩」を基に目標を設定する。活動後は振り返りを行い、その内容について掲示を使って紹介する。 ・共通や児童集会、委員会活動、学校行事等では、事前に教師と児童とで打ち合わせを行い、当日は児童が中心となり活動を行うことで「出番・役割→承認」を取り入れる。							
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化 ・望ましい生活習慣の形成 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の推進 ・G学年体育科学習の充実や外遊びの奨励 ・スポーツチャレンジを通じた体力向上の取組 ・給食・食育指導の充実	●「進んで運動をしたり、体を動かす遊びをしたりしている。」と回答した児童90%以上 ○「早寝・早起き・朝ごはんを心掛けて生活している」と回答した児童90%以上。	・運動するよさを放送等を通して伝えることで、外遊びや体育館での遊びを奨励する。(週に2日以上) ・スポーツチャレンジにおいて、掲示版に記録表やチャレンジポスターを掲示し、達成回数や記録を更新し、学級での取り組みの発表につなげる。 ・「早寝早起き朝ごはん」の徹底を図るために、チェックシートを作成し、年2回家庭での取り組みを推進する。また、養護教諭による保健指導や学級担任による道徳・学活の時間などで、生活リズムと健康との関係について考えさせる機会を設ける。							すこやか部長 養護教諭
	○危機回避能力の育成 ・感染症や災害、事故、事件に対応した避難訓練や安全教育の実施	○「災害や事故、事件などに対して、児童に危険を予測し、回避させる指導を行っている」と回答した教員100% ○「避難訓練や交通安全教室、学活で学んだことなどを意識し、安全に気を付けて登下校したり、学校生活を送ったりしている」児童95%以上。	・年間4回の避難訓練の前後に、学級で訓練の必要性や避難方法について指導し、年間を通して継続指導を行う。 ・月1回の集団下校の日に、学級で下校時のルールを確認する。 ・自分で危機を予測して動く力を育てるために、資料や動画を活用して安全教育にかかわる研修を行う。							こころ部長
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・ノルマ残業デーを設定し、管理職が率先して運動することで、職員間で構りやすい意識を醸成させる。 ・職員会議や職員連絡会など月に1回以上、業務効率化のアイデアを紹介する場を設け、職員全体で働き方改革を行っていく。 ・「年休おやすみ日」を設定したり、学年間で合同授業を行ったりすることで、職員が安心して休める環境を整える。							教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○全職員での情報共有と校内支援体制(チーム支援)の確立 ○ユニバーサルデザイン(UD)の視点を取り入れた授業・環境づくり	○「学級・児童にあった支援を考え改善を図っている」と回答した職員90%以上。	○毎週行う気になる子の情報交換会を通して、配慮が必要な児童の情報共有を行う。また、必要な児童についてはケース会議を行ったりエリアリーダーの巡回や巡回相談による指導・助言を行ってもらうなどの児童に合った支援体制を整える。 ○UDを推進した学習・環境作りについて、講師を招いて研修を2回行う。また、各学年の取り組みの紹介したり年3回のUDチェックリストを行い、職員の意識を高める。							特別支援コーディネーター
○愛郷心の育成	○「こども伊万里学」や「コミュニティスクール」の推進 ・学校サポーターや地域企業等を活用した体験・交流活動の充実 ・積極的な情報発信 ・たんぽぽこども園との交流 ・9年間の学びをつなぐ教育の推進(青嶺中校区小中連携教育の充実)	○学校サポーターや地域企業、施設等を活用した授業を各学年年間3回以上、全校で50回以上実施し、児童が主体的に地域と関わることができるようにする。 ○「伊万里市や黒川町のいいところやまなぶことを知っている」と回答する児童95%以上 ○保小中連携の授業や活動を高学年において年に3回以上行う。	・学校サポーター一層を職員室に掲示し、職員が学校サポーターの活用状況を把握できるようにする。 ・学校サポーターやコミュニティセンターと連携し、児童が主体的に地域と関わり、参画する活動をその都度HPにアップする。 ・青嶺中校区の小学校5、6年生の交流活動や中学生との授業交流を3回以上実施する。 ・次年度を見据えて5年生とこども園年長さんとの交流活動を行うためお互いに行き来する。							教務主任・教頭

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------